

## 平成20年度 幼児教育保育学科における宿泊実習報告

増田 美由紀\* 白井 博之\*\*

A Report on Practical Training Program in 'the Department of  
Early Childhood Education and Care'

Miyuki MASUDA\* Hiroyuki SHIRAI\*\*

### 1. はじめに

本学における「生活実習ハウス」の歴史は、開学当時の昭和39年に遡ることができる。

当初、家政科（現：家政学科）において、家政学、とくに家庭経営学を学ぶための施設として設置された。昭和39年当時、家政経営学の双璧といわれた竹ノ内ユキ先生（同志社女子大学教授、のちに甲子園短期大学名誉教授）の発案によるものであった。以来、45年の長きにわたり受け継がれてきた本学の歴史をここに見ることができる。

短期大学に隣接したこの建物は、元々学院長の私邸であった。当時まだ、ご存命であった校祖婦人や、ご家族にとって思い出深い生活の場を提供なさることは大変なご決断だったろうことは想像に難くない。

しかし、校祖先生の「家庭は人生のオアシスだ」ということばを実践するための、家庭婦人の育成の場として、この生活実習ハウスはスタートしたのである。

### 2. 宿泊実習の意義

開学当初、生活実習ハウスでの宿泊実習は「家庭管理実習」に始まっていた。当時の学院機関紙『園の輪』には、竹ノ内ユキ名誉教授のことばがこのように掲載されている。

「なぜ、家庭の主婦となるために、多くの金と時間をかけて、大学教育を受けるのであろうか？」

社会のすべての人々、世界のすべての人々は皆、個々の家庭の一員であって、どんな人でも等しく家庭生活の間に、身体・精神・知識・情操・思想・性格・意志・躰等々、多くの人間形成の基礎が育成されるのである。しかも今の家庭生活は昔のように、孤立したものではなく、社会・国家・世界と常に密接に有機的に関連して、機械文化等の自然科学面でも、社会・国際状況・経済事情・思想問題、その他人文科学的な面でも、凡べて直ちに影響されるので、教養ある適正な判断力によって、それらの中から巧みに吸収したり、時に防禦して、家庭の人々が、次代の優れた善い社会人となれるよう、平和な文化的世界の建設に貢献されるよう、また一面、幸福な人生が持てるような人格構成のための相談役・指導役・援助者となって家政を主催するのが主婦であるから、聡明で、文化的で、豊か

---

\* 本学准教授

\*\* 本学教授

な立派な主婦が、次代の進展とともに強く要請されるから、女子に大学教育がますます必要となるのである。(中略) 私は、本大学では家庭経済学や家庭管理学の理論教授にも、少人数を単位として『ゼミナール』形式で進行し、学生は直ちに質疑応答、討論が自由にでき、第二学年においては、これらの実習や実験も加えて科学的な研究を試みるとともに学問をとおして人間教育を行ない、さらに二週間の『生活実習ハウス』を実施して、既習の『衣・食・住・家庭経済・家族関係・看護・来客接待』等々の専門教科の総合的実習を行って家事の合理的研究をするとともに、対人関係の検討をも試みて家庭管理の仕上げとし、如何なる時代にも、よく対処できる主婦としての訓練を行うつもりである。」

(「園の輪」昭和39年7月発行より)

このように考えるならば、幼児教育的視点からも、ここでの実習は大きな意義をおびてくる。主婦として、母として育児や家庭管理の知識が不可欠なことはいうまでもないが、保育者としても「衣・食・住」の多面的知識は重要である。背景の異なる多くの子どもを預かる立場と考えればなおさらである。

本学では、平成18年度から幼児教育保育学科においても以下の目的で本格的な宿泊実習を行っている。

### 3. 幼児教育保育学科の宿泊実習

平成18年度から幼児教育保育学科で本格的に取り入れられた本プログラムは、家政科や家政学科が従来行ってきたものと大きく異なる。

それは、あくまで保育者としての視点に立つということである。学生に対する事前学習でも目標として「保育における『生活』の重要性を学ぶ」ということが掲げられていることから

うかがえる。

今回で3年目を迎えた本実習は、I回生を対象として実施されている。幼児教育保育学科で学ぶ自覚をもつ契機として毎年重要な位置づけとなっている。

ここで生活管理の重要性を学び、その後の幼稚園実習・保育園(所)実習に生かされなくてはならない経験となっている。

学生たち自身は、今まで家庭において子どもとして、保護者に養育される立場であった。それが社会人になると、保育者として子どもの生活を、ひいては子ども自身を守り育てる立場になるのである。しかも、彼女らは家庭人として自分の子どもを保育するのではなく、多様な背景をもち、それぞれの環境の中で育ってきた子どもたちを幼稚園教諭・保育士という社会的立場をもって指導することになる。

子どもたちの社会性や基本的生活習慣を育成するために、保育者として身につけておかなければならない教養、その中には単に保育に関する知識だけではなく、生活全般の事がらが含まれるのは必至である。

そのうえで、社会人として、教育者としての知識・技能を高めることを目的とした実習を計画した。

期間は5~6人の班ごとに2泊3日である。

目的…宿泊を伴う生活実習を通して、衣・食・住・人間関係などの家庭運営に必要な総合的能力を養う。とくに子育てにおける「生活」の重要性について学び、現代の経済的・社会的環境下で問題とされる点について模索し、保育者として必要な知識・技術の習得を目指す。また、実践を通して自分自身の生活様式について振り返り、日常生活の

見直しと主体的実践意欲を高める。

(生活実習ハウス宿泊実習要項より)

#### 4. 早寝早起き朝ごはん

子どもたちが心身ともに健やかに成長していくためには、適度な運動、バランスのとれた食事、そしてそれによって培われる体力が保たれなくてはならない。平成17年7月に施行された食育基本法の浸透を目指し、文部科学省は「早寝早起き朝ごはん」国民運動の推進に乗り出した。これは、子どもの基本的生活習慣の確立を目的としたものである。

昨今の家庭における食生活の乱れや睡眠の乱れ、これらを個々の家庭の問題ではなく、社会全体の課題として家庭・学校・地域社会の連携により取り組んでいかななくてはならない。

ここに家庭管理の問題が絡んでくる。家庭で子どもたちがどう育てられるべきかを如実に捉えている。家庭も一つの社会である。そう考えると国がこのような一大キャンペーンを繰り返すことは滑稽であるとともに、個々の家庭管理者にとっては、ある意味恥ずべきことなのである。

“個食”・“孤食”ということばが使われるようになって久しいが、たしかに昨今の家庭事情を考えると、家族のそれぞれが、それぞれの時間に活動するために食事の時間もばらばらである。一見すると“個”が尊重されているようではあるが、家族という単位で役割を見てみるとどうだろう。

これまでは、親の役割、子どもの役割、兄弟姉妹の役割、そして祖父母の役割等々について実際目の前で見て、体得していくことは多かつたはずである。しかし、核家族化がここまで進み、親族との関係すらも希薄になっていく一方

の現代社会において、家族の中だけでそれらを創り上げることが難しくなっている。

そこで、幼稚園や保育所、小・中学校、あるいは国までもが、その関係改善の後押しをしようとしているのである。

そうであるならば、幼稚園や保育園(所)が、単に集団生活の訓練の場、保育の場という意味合いでのみ存在するのではなく、これまで以上に家庭・社会と密接に関わりをもって、子どもの育成に臨むべき存在として考えられてしかるべきである。

#### 5. 現代保育への実践と今後の課題

この宿泊実習では、保育者としての視点で、家事を執り行い、食生活のあり方を考え、献立をも考え、実行していく。これは将来、子どもに接することのみを考えて行われた実習ではない。保護者への対応をも念頭におき、保育者として保護者に対して適切なアドバイスができ、保護者とともに子どもを育成していくのが本来の保育者であるべき姿だということを学生自身が気づくことを願っている。

また、幼児教育や保育といわれるものが、実は家庭と社会とを、より密接に関わらせるかはしに位置づけられるとするならば、現在、幼児教育を学び、将来、そのような職に就きたいと考えている学生たちにとって、自分たち自身、身をもって「他者とのコミュニケーション」について考え、「円滑な人間関係」を身につけなければならないのは必然である。

実習後の、アンケート集約の中には次のようなものが見られた。

- ・親のありがたみが身にしみた。
- ・家事がいかに大変なものかわかった。

- ・助け合いと一言で言っても、実はとても大変だ。
- ・朝ごはんが一日の中でとても重要なものだとわかった。
- ・周りの人に感謝しなければならないと痛感した。

また、個々の自己評価をまとめると以下のようである。

### 1. 事前指導における実習の概要理解

- ・自ら進んで実行できた 50%
- ・指導者の助言を得て実行できた 36%

### 2. ①実習中の衣食住生活

- ・自ら進んで実行できた 42%
- ・指導者の助言を得て実行できた 34%

### ②実習中のコミュニケーション

- ・自ら進んで実行できた 80%
- ・指導者の助言を得て実行できた 14%

### 3. 実習全体を通して

- ・自ら進んで実行できた 57%
- ・指導者の助言を得て実行できた 30%

これは学生の自己評価の概要であるが、自主的に実習を行い、主体的に学ぶ姿勢をもってそれぞれの2泊3日を過ごすことができたのは大いなる収穫であった。

また、学生たちはこの実習に臨むにあたり、各自で「実習目標」をたてた。そのいくつかを以下に挙げる。

- ・人間関係、コミュニケーションの大切さを理解する
- ・基本的な生活習慣の大切さを理解する

- ・生活のリズムの大切さを理解する
- ・手際よく調理を行い、食に関する知識を高めるなどとなっている。

この宿泊実習に参加した学生たちは、先にも述べたように、家庭においては子どもとして、親に養育される立場である。その学生たちが、たとえ2泊3日であっても自分たちで生活を管理するという事は、本人たちにとって貴重な体験となっている。

特に、幼稚園教諭や保育士の職業人としての使命を少しは確かなものにすることができたと評価している。

今後は、幼児教育保育学科としての特色をいかに出すかが課題である。

たとえば、衣生活分野においては、幼児服の素材による洗濯のしかたや、乾燥のしかたの違いを学ぶのも学生への興味づけになっていくのではないだろうか。食生活分野においては、幼児食やおやつについての実習を手がけていくのもひとつであろう。

また、住生活分野においては幼児の視線（目の高さ）で、ものを見ること、置くことを考えたり、掃除のしかたを考えたりすることが必要になってくることを学ぶのも大切なことであろう。

幼児教育保育学科としての視点で、新たな発展を目指していきたいと考える。

## 6. まとめ

昭和39年の開学以来、何度か改築をくり返してきた生活実習ハウスであるが、阪神・淡路大震災（平成7年）の打撃は甚大なものであ

た。しかし、この打撃をも逆手にとり、近代的設備の整った施設へと発展した。現在は介護実習のできる施設、隣りにはイネーブルガーデンもあり、学内だけではなく広く地域に開放される施設となった。

本学において、宿泊実習をするということは家政学科、幼児教育保育学科の名にとらわれず、広く社会に貢献できる人材育成を目指すものである。

とりわけ、ここで話題として取り上げた幼児教育保育学科の学生には、幅広い視野をもって保育を捉え、それぞれの子どもたちが育つ環境を尊重する目と方向性を身につけてほしいと強く思っている。

そのために、学生たち自身が高い道德心と向学心をもち、自身の将来像を明るく切り拓いていってくれる一助になれば、この実習の本望である。

本実習の実施にあたり、教職員はじめ、関係各位に多大な協力をいただいたことに謝意を表します。

## 生活実習ハウス 宿泊実習要項

甲子園短期大学  
幼児教育保育学科

生活実習ハウス 平面図



1

### I. 宿泊実習について

#### 1. 目的

衣・食・住・人間関係などの家庭運営に必要な総合的能力を養う。特に子育てにおける「生活」の重要性について学び、現代の経済的・社会的環境下で問題とされる点について模索し、保育者として必要な知識・技能の習得を目指す。

また、実践を通して自分自身の生活様式について振り返り、日常生活の見直しと主体的実践意欲を高める。

#### 2. 目標

- (1) 生活をトータルに運営できる能力と、保育者として子育て支援に関わる際に十分な配慮や工夫ができるセンスを養う。
- (2) 栄養バランスを考慮し、基本的な食生活の計画をたてる。
- (3) 心地よく過ごせる空間・時間の演出を心がけ、生活を楽しむ工夫をする。
- (4) 環境・健康に配慮した商品の選択・購入を行う。
- (5) ごみの減量や出し方を工夫し、清潔で快適な生活が送れるようにする。
- (6) すずんで挨拶や会話を心がけ、他者と気持ちよく共同生活ができるようにする。
- (7) 良好な人間関係のあり方について体験的に学ぶ。

#### 3. 実施方法

- (1) 実習期間  
平成 年 月 日( )～平成 年 月 日( )
- (2) 実習日程  
各班2泊3日とする。  
時間は月～水曜日は月曜日 16:30 入館、水曜日 8:30 退館。  
水～金曜日は水曜日 16:30 入館、金曜日 8:30 退館。
- (3) 実習の形態  
実習期間中は生活実習ハウスで宿泊し、昼間は通常の授業を受けながら実習を行う。  
班は6～10名で編成する。
- (4) 実習費用  
1人 6,000円  
内訳 食費 2,500円  
運営費 2,000円  
光熱水費 1,500円

### II. 事前学習

#### 1. 目標

- (1) 保育における「生活」の重要性について学ぶ。
- (2) 健康に配慮した献立を考え、無駄なく効率的に買い物ができるよう献立に見合った買い物リストを作成する。
- (3) 衛生的で心地よい生活を実践するために、実習中の食生活や住生活の計画をたてる。
- (4) 環境・資源に配慮した暮らしを実践するために、ゴミの減量・省エネなどの生活様式について考える。
- (5) 家計管理の方法を理解する。
- (6) 実習をスムーズに行えるよう、生活時間の配分を計画する。
- (7) 共に生活する仲間とのコミュニケーションをはかり、互いに思いやり協力する姿勢を培う。
- (8) 安全のために緊急時の対処方法・心構えを学ぶ。

#### 2. 実習計画・準備

学習内容	学習課題	学習方法
1. 実習の概要理解 1) オリエンテーション	1) 実習の目的・目標を理解する。 2) 実習施設の概要を知る。 3) 緊急時の行動・避難経路・方法を知る。 4) 実習時のスケジュールを知る。	・実習要項の配布と解説を受ける。 ・生活実習ハウスの見学をする。 ・緊急時の避難経路・方法の説明を受ける。
2. 実習にむけての準備 1) 「子どもの生活」の学習 2) 食生活の計画	1) 保育における「生活」の重要性について学ぶ。 2) 実習中の食生活の計画(1日30品目、6群のバランスの良い献立を計画する。) 3) 効率的に商品を選択・購入する。	・専門領域の個別講義を受ける。 ・健康に配慮した日常の献立を作成する。班ごとに話し合い、献立計画表を作成する。 ・買い物リストを作成する。

2

3

3) 衣生活の計画	1) 日常の衣服の管理方法について学ぶ。 2) 実習に適した服装を考える。	・手入れや管理の方法について確認する。 ・実習中の衣生活を考えた持ち物計画をする。
4) 住生活の計画	1) 衛生的な生活に必要な整理整頓や掃除の仕方を考える。 2) 環境・資源に配慮した日常生活スタイルを考える。	・担当場所の割り当てをする。 ・ごみ処理方法や分別方法を確認する。
5) 生活経営・生活管理の計画	1) 家計管理の方法を学ぶ。 2) 協力して生活を効率よく行う工夫をする。	・家計の構造、分類などを学び、実習の予算管理について考える。 ・班ごとに話し合い、実習中の役割を分担する。
6) 他者とのコミュニケーション	コミュニケーションの大切さを知る。	・現状の問題点やコミュニケーションの工夫・配慮について考える。

### 3. 演習課題

#### (1) 目的

経験豊かな実習指導者と準備・宿泊をともにするという学習形態を活かし、自主的に学習、体験をする。適切な課題設定、意欲的に取り組む姿勢を培う。

#### (2) 目標

- 適切な課題を設定する。
- 事前学習、準備において意欲的に取り組む。
- 班員と協力して有意義な演習時間とする。
- 学習内容をしっかりとまとめる。

#### (2) 方法

事前学習時：班ごとに課題を設定する。  
実習前準備：調べ学習や情報収集を行い、演習に向けて準備をする。  
演習時：活発な意見交換を行う。演習内容をまとめる。  
実習後：評価・反省・感想を加えて提出する。

### Ⅲ. 実習内容

#### 1. 実習中のスケジュール

	1日目( / / )	2日目( / / )	3日目( / / )
6:00		起床 ・洗面、身支度 ・居室の清掃	起床 ・洗面、身支度 ・居室の清掃
6:30	点呼 ・朝食及び弁当作り ・清掃	点呼 ・朝食及び弁当作り ・清掃	点呼 ・朝食作り ・清掃 ・リネン整理
7:30		朝食	朝食
8:00		片付け・登学準備	片付け・登学準備
8:30		登学	退館・登学
～			
16:30	入館(下校) 入室、着替え 居室整理	入館(下校) 入室、着替え	
17:00	点呼(リネン)集合) ・買い物、夕食作り ・リネン整理 ・清掃	点呼(リネン)集合) ・買い物、夕食作り ・リネン整理 ・清掃	
18:00	(門限)	(門限)	
19:30	夕食 ・夕食片付け ・入浴 ・制服の手入れ、洗濯 ・学校準備 ・ベットのメイキングなど	夕食 ・夕食片付け ・入浴 ・制服の手入れ、洗濯 ・学校準備 ・退館準備	
21:50	(入浴完了)	(入浴完了)	
22:00	ミーティング ・自己紹介 ・連絡、反省	演習 ミーティング ・連絡、反省	
22:50	戸締まり、 火の元チェック、 洗面、身支度 消灯、就寝	戸締まり、 火の元チェック、 洗面、身支度 消灯、就寝	
23:00			

#### 2. 持参品

- ・宿泊実習要項 ・実習期間中の授業に必要なもの
- ・エプロン、三角巾、手拭き ・着替え、パジャマ ・洗面具 ・タオル類
- ・弁当箱、箸 ・健康保険証のコピー ・常備薬(個人的に必要なもの)
- ・雨傘 ・小遣い少々 ・ヘアドライヤー ・時計
- \*枕カバー・シーツ・布団カバーは短大で貸し出す。  
1日目入館時に配布し、退館日の朝に回収する。
- \*授業や実習に必要なものや、貴重品は持ち込まない。
- \*着替えは洗濯出来ることを考慮して必要枚数を準備すること。なお、実習ハウスは冷暖房完備だが、快適温度には個人差があるので調節用の服装も準備すること。

#### 3. 実習で身につけるべき知識・技能

##### (1) 食生活

- 栄養・経済・嗜好を考えた献立を作成する。
- 適切な食材を購入する。
- 適正かつ効率の良い調理方法を考える。
- 調理器具の取り扱い方を理解する。
- 配膳の仕方や給仕の作法を学ぶ。
- 正しい食事マナーを身につける。

##### (2) 衣生活

- 手早い身仕舞い、衣類(制服、私服、下着など)や靴の手入れをこまめにする。
- 衣服の素材による取り扱い(洗いの仕方、洗剤の種類、漂白の可否、干し方、絞り方、アイロンおよび洗濯機・乾燥機の取り扱い方など)の違いを知る。
- 寝具の衛生的に管理する。

##### (3) 住生活

- 室内外の整理・整頓、合理的な収納法を考える。
- 衛生的・効率的な清掃方法と掃除用具の扱い方を習得する。
- 家具・器物の手入れ法を学ぶ。

##### (4) 経済生活

- 人数に応じた食費・日用品等の予算計画をたてる。
- 時間とエネルギーの有効な使い方、状況の変化への適切な対応を習得する。

##### (5) 人間関係

- 良好な人間関係を形成する能力を養う。
- 来客時の接待の仕方を身につける。

##### (6) 教養

日常生活における常識やマナーを身につける。

##### (7) 保育技術

- 保育における「生活」の重要性を理解する。
- 乳幼児用食器などの使い方を習得する。
- 子ども用のお弁当やおやつ作りの工夫や配慮について考える。

#### 4. 役割分担

各自の役割を自覚し、責任を持って仕事を遂行すると共に協力的な態度をとるように努力する。

##### (1) リーダー(全体の責任者) 各日1名

- 班全体を把握して実習がスムーズに行われるよう、学生間及び実習指導者と学生間の連絡調整をする。
- 起床時の点呼、電気、ガスの元栓、施錠などを行う。

##### (2) 各係と役割

次の係分担で実習する。実習期間中、全員が表に従って各係を担当する。各係にチーフを決め、チーフは次の仕事を把握し、係員に指示を出し、仕事分担の調整をする。

##### (a) 買い物・会計係

買い物、食費及び運営費の管理をする。家計簿記帳、領収書の整理を行う。

##### (b) 清掃・リネン係

実習ハウス内外の清掃とごみの分別処理を行う。  
入浴準備をする。リネン類(枕カバー、シーツ、布団カバー、タオル、足ふきマットなど)の整理を行う。

#### 5. 事前準備

- 1) 1日の授業や行事を通じ、班のメンバーとうまくコミュニケーションがとれるようにしておく。
- 2) 担当日ごとの買い物リストを作成する(廃棄量を考慮する)。
- 3) 実習ハウス周辺のスーパーの場所・売り場の配置・品揃え・価格などを下見し、休業日も調べておく。
- 4) 自分の役割分担を理解した上で、実習中のスケジュールを充分確認しておく。

#### 6. 実習中の諸注意

##### (1) 食生活について

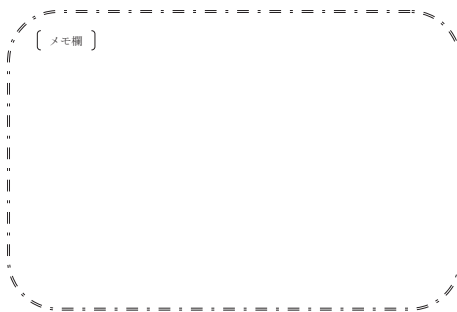
- 調理中は衛生に注意し、エプロン・三角巾を着用し、充分手洗いを。  
・長い髪は束ねる。長い爪、マニキュアは厳禁。風邪のときはマスクを着用する。
- 盛り付けは素手で行わない。
- 調理器具・食器などは大切に扱うこと。
- 食事開始時間の目安は、朝食は7:30、夕食は19:30とする。
- 食事中はリーダーを中心に全員が和やかな雰囲気を作るよう心がける(テレビはつけない)。

- (2) 買い物について
- (a)在庫確認を行い、買物リスト、電卓、買物袋、買物カート持参で買物に行く。  
 (b)レシート、領収書は必ず持ち帰り、所定の用紙に日付順に貼りつけ、管理する。  
 購入するもの…食事材料、調味料、飲物(牛乳、ジュース、コーヒー、お茶) 果物など。台所用品(アルミホイール、ラップ、爪楊枝、台所洗剤、油処理剤など)、洗濯洗剤、掃除用洗剤、ハンドソープ、ボディスチャンプー、シャンプールンス、トイレトペーパー、ティッシュペーパーなど。  
 (c)食事及び演習に必要なものは、原則として班ごとに購入する。  
 (d)実習ハウス近辺で手に入らないものは、前もって購入してもよい。  
 (e)5時限目に授業がある場合は、買物メンバーを交代するなどして対応する。
- (3) 清掃について
- (a)原則として、毎日生活実習ハウス各部屋を清掃する。  
 (b)各部屋、各場所に応じた道具・洗剤・方法を考え、清潔で快適な住空間を保つようにする。  
 (c)ゴミは、西宮市の収集方法を考慮して分別する。  
 [可燃ゴミ]「不燃ゴミ」に分け、学院のゴミ収集場で持っていく。
- (4) リネン類の整備について
- (a)洗面用、入浴用タオルは、各自用意する。  
 (b)トイレのタオル、浴室の足ふきマットは毎日取り替え、洗濯する。  
 (c)洗濯機、乾燥機の使用は、夜のミーティングまでとする。
- (5) 入浴について
- (a)入浴時間は、夕食終了後から 21:50 までとする。  
 (b)続けて入浴し、時間やお湯を無駄遣いしない。  
 (c)浴室や更衣室に落とした自分の髪の毛は、自分で始末する。
- (6) 服装について
- (a)入館、退館時は制服を着用する。  
 (b)実習中は、学生らしく活動しやすい日常着(私服)を着用する(買い物にも適するもの)。  
 (c)制服、私服(日常着、下着など)の洗濯は下校時より 22:00 までとする。
- (7) 使用規程について
- 学生便覧(生活実習ハウス使用規程)に基づいて運用する。
- (8) その他
- (a)1 日目入館後すぐ避難経路・非常口を確認する。  
 (b)門限(18:00)を厳守する。  
 ・授業や就職活動などで入館、退館時間に変更がある場合は、実習指導者と班のメンバーに事前に必ず連絡しておくこと。  
 ・18:00以降は、病気や怪我等特別な場合を除き外出を禁止する。  
 (c)計画した献立に必要なもの以外の食料およびラジオ・カセットデッキなど騒音を発生するものは持ち込まない。

8

## VI. 実習記録用紙

1. 役割分担と部屋割り (事前学習時に記入)
2. 生活記録表 (実習時に記入)
3. 生活記録集計 (実習後に記入)
4. 食生活記録・評価表 (事前学習・実習時に記入)
5. 宿泊実習評価表 (実習後に記入)



10

- (d)居室での飲食は禁止する。  
 (e)みだりに他人の部屋に入らない。  
 (f)該当する実習生以外の入館を認めない。  
 (g)体調不良や事故などで実習に参加できなくなったり、途中で退館した場合、他の班との実習または予備週での実習などで補習する。  
 (h)1 日目の 14:00 現在で兵庫県南部に暴風警報発令中または全交通機関ストで登校不能の場合、実習は予備週に延期する。  
 (i)保護者に日程・場所・連絡先などを知らせておくこと。

## 7. 提出物

- (1) 事前指導時
- |        |              |
|--------|--------------|
| ・献立計画表 | 指導時に配布、提出する。 |
| ・買物リスト | 〃            |
- (2) 実習後
- |                |  |
|----------------|--|
| ・感想文「宿泊実習を終えて」 | 短大原稿用紙 3 枚以上                                   |
| ・実習記録          | 実習記録用紙に記入、提出する。                                |
| ・演習のレポート       | 事前計画・事前学習・まとめを全て含め、調べた資料は全て添付する。(レポート用紙 3 枚以上) |

## <連絡先>

\*\*\*\*\*

甲子園短期大学教務課 0798-65-3300 (昼間)

生活実習ハウス 0798-67-8862 (宿泊期間の  
夜間・早朝)

\*\*\*\*\*

9

## 1. 役割分担と部屋割り

第 班 宿期間 月 日( ) ~ 月 日( )

係り	1 日目	2 日目
買い物・ 会計係		
清掃・ リネン係		

\*1 日目は、1 日目の入館から翌朝の登学までを指す。

\*グループ毎に各班のチーフを決め、氏名の左肩に◎のマークを付けること。

	1 日目	2 日目
リーダー		

## ☆部屋割り

部屋番号	組 (番号) 氏名	
1	( )	( )
2	( )	( )
3	( )	( )
4	( )	( )
5	( )	( )

11

2. 生活記録表

月日 時間	作業内容		
	1日目( / )	2日目( / )	3日目( / )
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			

12

3. 生活記録集計

生活時間分類(別紙)を参考に、入館から翌朝の登学までをそれぞれ1日と考えて生理的生活時間、家事的な生活時間、社会的・文化的生活時間の合計を出しなさい。

		1日目	2日目	3日目
A 登学時間				
生理的生活時間	B 睡眠時間			
	C 食事等			
D 家事的な生活時間 (内訳 ①～④の合計)				
①食事に関する時間				
②住居に関する時間				
③被服に関する時間				
④買い物・家庭経済の時間				
E 社会的・文化的生活時間 (教養・娯楽・交際など)				
合計 (A～Eの合計)				

13

4. 食生活記録・評価表

区分	献立 (事前)	記録・評価 (当日)			
		味と量	栄養バランス	盛り付け	価格・その他
一 日 目	夕食				
	朝食				
二 日 目	朝食				
	昼食				
	夕食				
三 日 目	朝食				
	昼食				
	夕食				

14

5. 宿泊実習評価表

実習 目標	(私が実習を通して学びたいこと)						
学習内容	学習課題	自己評価					
1. 事前指導における 実習の概要理解	1) 宿泊実習の目的・目標を理解する 2) 実習時のスケジュールを知る 3) 班での部屋割・役割分担を決める	5	4	3	2	1	
		5	4	3	2	1	
		5	4	3	2	1	
2. 実習当日	1) 食生活	1) 実習中の食生活の計画について健康に配慮した日常の献立作成をする	5	4	3	2	1
		2) 献立に従って、買い物リストを作成する	5	4	3	2	1
	2) 衣生活	1) 日常の衣服の手入れ方法、被服の管理方法の確認	5	4	3	2	1
		2) 実習中の衣生活を考えた持ち物計画を作成する	5	4	3	2	1
	3) 住生活	1) 衛生的な生活のために、整理整頓や掃除の必要を知り、感染症を予防する方法を学ぶ	5	4	3	2	1
		2) 環境・資源に配慮した日常の生活スタイルを考える	5	4	3	2	1
	4) 生活経営・生活管理	1) 生活に必要な経費の管理について、家計簿の内容を理解する	5	4	3	2	1
		2) 生活がスムーズに行なえるように、生活時間の配分計画をし、生活をトータルに捉える視点を養う	5	4	3	2	1
	5) コミュニケーション	1) 共に生活する仲間とのコミュニケーションをはかり互いに思いやり協力する姿勢を培う	5	4	3	2	1
			5	4	3	2	1
3. 実習全体を通して	実習目標の達成	5	4	3	2	1	

5 自ら進んで実行できた 4 指導者の助言を得て実行できた 3 多くの助言を必要としたが努力し実行できた

2 指導者の助言を得ても不安定、課題が残った 1 消極的になり実行できなかった

15